



5月号

No.461



(本校 HP はここから)

横浜市立都田小学校

令和4年4月 28日

## がくしゅう 学習のたね

こうちよう いまむら こうどう  
校長 今村 行道

校内を回る際、中庭に通りかかります。花壇があり、池があり、造形砂場があり、飼育小屋がある中庭は、昇降口につながる大切な場所です。春には、梅や桜が咲き、秋には銀杏が落ち、イチョウの落ち葉が舞う、季節の移り変わりを感じられる場所でもあります。

子どもたちは、花壇をきれいにし、各学年の学習に合った植物を植えます。そして、成長の様子を観察するために、時々立ち寄ります。自分の植木鉢を置いて、毎日心をこめて水やりをする姿も見られます。

「大豆って、えだまめからできるんだね!」「ゴーヤって、こんなふうになるんだ。」「ほってみたら、大きなさつまいもがとれた!」「花だんの近くでダンゴムシをとったよ。なにを食べているのかな?」

一つ一つの発見が、理科、生活科、総合的な学習の時間を中心とした学習のヒントになります。

学習指導要領の総合的な学習の時間の目標には、

「実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。」

という資質・能力を育成することが示されています。これは、子どもの小さな気付きから学習がスタートしていくことを意味するものでもあります。

本校では、本年度より中期学校経営方針の重点取組分野に「思考力育成」を掲げました。そして、子どもが「本気」で思考する場面に重点を置きながら、学びの過程を重視し、自ら判断する力を育てていこうと考えています。順番通りに進めていく必要のある学習もありますが、「ここは、子どもの思いを活かしたい」という学習場面もたくさんあります。子どもたちの発見や気付きを丁寧に、かつ少しずつ取り上げながら、共に学びを作り上げていきたいと思っています。

学習のたねは、子どもたちの身近に転がっているかもしれません。

